

harmony

— 岩手県立中部病院 地域連携便り VOI. 3 —

— ごあいさつ —

院長 北村 道彦



中部病院は、波乱の中で3年目を迎えました。

大震災で被害を被った全ての皆様に心からお見舞い申し上げます。

当院は、幸い建物やライフラインの損傷が少なく、沿岸被災地の患者さん搬入に全力で当たりました。特に敷地内ヘリポートや花巻空港を経て、沢山のヘリ搬送を受けました。また、沿岸の基幹病院支援として、釜石病院を中心に職員を派遣しました。今回の地域連携便りは、大震災特集として、病院の各部署の活動をまとめました。

多くの方が既に指摘している通り、今回は地震より津波の被害が殆どで、負傷者が相対的に非常に少なく、受入れた患者さんの多くが内因性の疾患患者でありました。また、沿岸の入院機能の代行が当院の大きいミッションで、釜石地区の2施設の入院患者搬送にスムーズに対応することが出来ました。地域の病院の皆様のご協力に感謝いたします。総じて中部地区は、全ての医療機関が協力し連携して、災害の急性期対応が出来たと考えています。日頃からの顔の見える連携活動が、大きな絆になりました。有難うございました。

さて中部病院は、懸案になっていた434床のフル稼働を、本年4月からスタートさせました。連携は益々重要です。これに合わせて、連携室に新しくベテランの連携コーディネーターナースを配置し、スタッフの増員も図りました。連携医療機関訪問も開始しています。地域支援病院の名に恥じないように、医療機関、福祉機関との連携に更に力を入れます。

本年度も宜しく願いいたします。



『そ〜ら通信』は「太陽」・「エコ」・「青空」、そして「元気の良い掛け声」と、たくさんの意味がこめられた院長通信の名前です。北村院長は山歩きが大好き。このコーナーでは、北村院長が山で出逢った花々を紹介いたします。



ヒナザクラ

雪解け後に咲く、代表的な高山植物で、可憐な花です。花は横を向いて咲き、小さく風に揺れるため、なかなか上手く写真が撮れません。初めて出会ったのが焼石岳で、その時の感激は今も心に残っています。この花に魅せられて私の山歩きが始まりました。この写真は秋田駒の阿弥陀沼で撮影しました。

地域医療機関訪問中！

地域医療福祉連携室では6月より、日頃お世話になっている地域の医療機関の訪問を始めました。今までに、日高見中央クリニック、総合花巻病院、北上済生会病院、岩手医科大学付属温泉病院、須田クリニック、円万寺クリニックを訪問させて頂きました。各施設のスタッフの皆さんともお忙しい中、快く対応していただき、施設見学もさせていただきました。

今後も顔の見える中部病院地域医療福祉連携室を目指し、各地域の医療機関の訪問を進めていきたいと思っております。訪問時はあらかじめご連絡し、ご都合を確認の上お邪魔させていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

新任医師紹介

平成23年6月～7月に着任した医師を紹介いたします。どうぞよろしくお願いいたします。
(精神科については院内紹介のみの対応で、標榜はしません。ご了承ください。)



なかむらひろし
中村宏

診療科・役名	呼吸器外科 呼吸器外科医長
出身大学	関西医科大学 胸部外科学講座
卒業年	平成3年
所属学会	日本外科学会(専門医)
ひとこと	地域の人のために少しでも力になれば幸いです。



さとうひろのり
佐藤博宣

診療科・役名	整形外科 整形外科医長
出身大学	岩手医科大学 整形外科学講座
卒業年	平成17年
所属学会	日本整形外科学会
ひとこと	for the patient



いしまるしょうご
石丸正吾

診療科・役名	精神科 精神科医長
出身大学	久留米大学 神経精神医学講座
卒業年	平成13年
所属学会	日本精神神経学会(精神科専門医)
ひとこと	緩和ケア科にて精神腫瘍医としての勤務を中心に取り組んで参ります。何卒よろしくお願い致します。

地域医療研修会のお知らせ

当院では、様々な研修会を企画しており、随時みなさまにご案内いたします。
多数の参加をおまちしております。

7月 26日 (火)	『リンパドレナージ』 菊地知 主任看護師(リンパドレナージセラピスト)
8月 30日 (火)	『がん化学療法』 高橋文子 がん化学療法認定看護師
9月 7日 (水)	『テープ貼付方法について』 石亀桂子 皮膚・排泄ケア認定看護師
9月 20日 (火)	『終末期における家族ケア』 伊藤ゆかり 緩和ケア認定看護師
10月 5日 (水)	『緩和ケア「精神的ケア」について』 畑山賢 緩和ケア認定看護師
11月 2日 (水)	『褥瘡予防のポジショニング』 石亀桂子 皮膚・排泄ケア認定看護師

◇ 時間 18:00~19:00 ◇ 会場 中部病院 講堂

お盆休診のお知らせ

8月15(月)

この日は全科一斉休診し急患対応とさせていただきます。救急のご紹介の際は救急センターへご連絡をお願いします。

胃・大腸がんの地域連携パスについて

地域がん診療連携拠点病院の指定要件に、『我が国に多いがんについて「地域連携クリティカルパス」を整備されていることをもって要件充足とする』とあります。

現在当院では、胃・大腸がんの地域連携パス運用開始に向け、北上・花巻医師会の先生方と検討を重ねており、この件についての説明会を9月に予定しているところです。日程が決まり次第ご案内させていただきます。

復興と再生へ
~Together As ONE~
岩手県立病院

WAKAKUSA Ribbon Project

岩手県立中部病院 地域医療連携室

〒024-8507

岩手県北上市村崎野17番10号

TEL 0197-71-1511

FAX 0197-71-1881 (地域医療連携室専用)

URL <http://www.chubu-hp.com/>



3. 1 1 東日本大震災 当院の対応

～ 連携活動の重要性を再確認 ～

釜石病院転院対応とドクターヘリ運用

副院長兼感染管理室長兼総合診療科長 田畑 潔

3月14日、県立釜石病院からの転院受け入れ要請があった。急遽、中間地点の遠野病院で搬送バスを待ち、搬送先を振り分けることとなり、鈴木副院長と私で出かけた。

遠野病院の救急室には関西ナンバー（岸和田、大阪、寝屋川等々）の救急車が前触れなく患者さんを連れてきては去っていく状態であった。地震で病院屋上のタンクが壊れ、病棟一部閉鎖の状況の中すごい頑張りだった。

我々二人はどんなバスが来るのかも知らされず、強風の中しばらく待っていると、1時間ほどして、見た事のない白い自衛隊の大型バスがやってきた

（ちなみに運転手さんは若い女性自衛官）。乗ってきた釜石病院の看護師から転院対象の方の氏名と病名、簡単な病状を書いた一覧を受け取り、病院風除室の机もない所で時折風に煽られながら搬送先振り分けを行った。東和病院、総合花巻病院、当中部病院に振り分けた結果をバスの中で発表し遠野病院を出発。バスの後ろを車で付いて行き、順に各病院を回った。どの病院もあたたかく迎えてくれたが、特に総合花巻病院の病院を挙げてのテキパキとした受け入れには脱帽した。後藤先生、澤田先生、佐藤先生はじめ各病院のスタッフのみなさんありがとうございました。



↓奥の白い車体が
自衛隊バス

↑何故か大阪管内の車が
多かった。



花巻空港のSCUが閉まってからは当院のヘリポートが患者搬送の要のようになり、日本各地からの支援ヘリが飛んできた。

ヘリには患者さんの他にも搬送元病院のスタッフが乗ることになっていたが、帰路はタクシーなどを使わなくてはならないため結構な負担となっていた。そこで6月よりドクターヘリとしての運用を開始し、当院の医師が同乗することとなった。第一号で釜石まで行ってきたが、片道20分、天気も良く快調であった。ただし上空ではうるさくて診療行為はまず不可能。上空で上下するとちょっと怖いのだが現地で助かっているとの事であり、患者搬送にヘリコプターが大活躍している。



浜松市消防局
“はまかぜ”



兵庫県消防防災航空隊
“ひょうご”



東京消防庁 “ちどり”